

7 国際交流

進捗状況報告

(1) 2003年度に設定した目標

1. 留学生入試の改革については教授会での検討が続いており、今後の課題として残されている。留学生の全学年在籍者数は2004年度64名、05年度73名、06年度81名、07年度82名と順調である。
2. 教員の国際交流はリール第1大学との交流が引き続き行われており、さらに韓国・延世大学、シンガポール・シンガポール国立大学との教員とゼミ生同士の研究交流が行われ、活発になってきている。
3. 学部生への外国語教育の改革が行われるとともに、日本人学生の協定校留学も2005年度3名、06年度5名、07年度1名、08年度（予定）5名と年により変動が大きいですが、以前よりも増加してきている。
4. 関西経済界との共同事業については次項の4. を参照されたい。

(2) 2005年度自己点検・評価で記した「改善の具体的方策」

1. 前項（1）の1. に記したように現在では各ゼミに平均1名弱の留学生がいるほどになっている。ただし、出身国は9割以上が中国で、その多様化に向けてまだまだ改善の余地が残されている。
2. リール第1大学との研究者交流は引き続き行われており、さらにEUIJ関西の活動の一環としてリール第1大学から研究者を招聘する準備を進めているところである。
3. 学部レベルで英語の授業を開催することはまだ実現されていない。今後の課題である。
4. 地元経済界との協力を得た国際的連携としては本学産業研究所の主催した「日中経済シンポジウム」（2007年2月 開催）には本学部の教員も深く関わり、さらに産業研究所は企業向けのイノベーション・フォーラムを2007年秋に開催 する予定であり、引き続き本学部の教員2名がこの活動に直接参加している。

(3) 認証評価の結果

上（1）の3. に報告したように、本学部の学部生の協定校留学は以前に比して漸増傾向が見られる。経済学研究科における目標に関しては、大きな成果を得たとは言い難い状況となっている。

学内第三者評価

認証評価の総評では、外国語教育の充実、交換留学の拡大、欧州やアジアの大学との提携など、国際交流の推進という基本方針は、概ね達成されているとしており、本評価もそれに同意できる。とくに、ゼミ生同士の研究交流と日本人学生の協定校留学は、順調に進展している。ただ、外国人留学生の国籍の偏りへの対応策、および、目標にある学部レベルでの英語授業の実現は、達成目標年限を明確にして、今後の進展に期待したい。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- すぐれた自己点検。基本目的の達成に努力が向けられている。
- 学生の海外派遣もやや増加してきているが、全学部生数2900人に比べれば多いとはいえない。
- 英語による授業の開講に是非とも取り組んでほしい。